

令和7年度 茨城県 英語教育改善プラン

言語活動を通した、互いの考えや気持ちなどを伝え合う力の育成

目標

- 児童の英語による言語活動を50%以上行っている学校の割合（R7：100%）
- 話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕を評価するパフォーマンステストの実施状況（R7：100%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンス含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①第5・第6学年で授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合
- ②パフォーマンステスト（話すこと）を実施している学校の割合

※県独自調査結果より 数字は%

	① 言語 活動	② やり取り	③ 発表
小5	96.4	98.7	98.7
小6	97.0	98.5	98.9

未だ改善が必要な点

- ①県内すべての学校において「言語活動を中心とした授業」並びに「パフォーマンステストの実施」を推進する必要がある。
- ②授業改善への取組に地域間や学校間の差が見られる。

2. 要因分析

- ①令和6年度学校教育指導方針において児童の言語活動を中心とした授業づくりについて動画を作成し、周知したことで、教員が言語活動について理解を深め、言語活動中心の授業づくりへの意識が改善したと考えられる。
- ②県教育課程研究協議会や各種研修会において、パフォーマンステストの意義や実施方法を周知したことで、実施への意識が向上したと考えられる。

- ①②県の方針について、県内すべての学校に行き渡っていないことから、市町村教育委員会担当者の英語教育への理解と協力が不可欠である。

県として、英語専門の指導主事がいない市町村教育委員会への支援が十分でないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②「言語活動を中心とした英語授業」並びに「パフォーマンステスト」の推進

令和7年度学校教育指導方針説明会において、下の資料を基に県の方針を伝えた。また、各種授業公開や研修会において県の方針を踏まえた授業公開を実施していく。

小学校（5、6年生）		外国語
努力事項	実現化のための取組	
1 言語活動を中心とした授業の充実	○言語活動を中心とした授業づくりの充実 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にした言語活動を中心とした授業実践 ・指導改善に生かすための学習状況の把握（中間指導の充実） ・言語活動の充実につながるICT（デジタル教科書、AI等）の活用 【参考資料】学習者用デジタル教科書実践事例集 ・はじめての学習者用デジタル教科書	
言語活動の定着「4ある」 相対し違ひがある。 ①「ほんのり」である。 ②「必然性」がある。 ③「楽しさ」や「意義」がある。		
2 目標と指導と評価の一体化	○各領域の目標と指導と評価の一体化 ・学習到達目標（CAN-DOリスト）の設定と効果的な活用 ・単元終末の言語活動と単元計画の工夫改善、パフォーマンステストの計画的実施、アセスメントテスト結果の活用	
【外国語教育の推進に向けた動画及び指導資料】 ・文部科学省 mixchannel 外国語教育はこう変わる！（外国語教育推進室） ・令和5年度全国学力・学習状況調査（中学校英語）調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導事例集（文部科学省、国立教育政策研究所）		

- ①一定の英語力を有する小学校教員の採用のため、採用試験において次の取組を実施
 - ・英語スペシャリスト教員の採用
 - ・・・ネイティブ・スピーカーに特別免許状を付与し、教員として採用
 - ・英語資格取得済みの者への加点制度
- ②遠隔教育推進事業（指導教諭による動画配信）
 - 【対象学年】小学校5年、6年
 - 【内容】各単元の授業動画作成・配信（全県へ）
各単元ライブ配信（同一市町村内の学校へ）

令和7年度 茨城県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通した、発信力の育成

- 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合（R6：83.9% ⇒ R7：93.0%）
- CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（R6：56.2% ⇒ R7：57.5%）
- CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（R6：41.1% ⇒ R7：100.0%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

- ①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合
- ②生徒の英語力
- ③英語担当教員の英語力

※県独自調査結果より 数字は%

	R4	R5	R6
①	76.8	85.7	83.9
②	52.4	53.2	56.2
③	31.8	33.6	41.1

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①英語担当教員の英語力
英語担当教員でCEFR B2レベル以上を取得している教員の割合は大幅に増加したが、全国平均を下回る。
- ②授業改善への取組に地域間や学校間の差が見られる。

2. 要因分析

- ①令和6年度学校教育指導方針において生徒の言語活動を中心とした授業づくりについて動画制作・周知したことで、言語活動を中心とした授業づくりや複数の領域を統合した言語活動の導入への意識が向上したと考えられる。
- ②県の施策が生徒及び英語教員の英語力向上に寄与したと考えられる。

- ①英語担当教員の英語力については、十分でない。CEFR B2レベル未取得者に対して根気強く声掛けをするなど支援をしていく。
- ②英語教育の推進のためには、市町村教育委員会担当者の英語教育への理解と協力が不可欠である。県として、英語専門の指導主事がいない自治体への支援が十分でないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③「言語活動を通した英語授業」の推進
令和7年度学校教育指導方針説明会において 下の資料を基に「言語活動を通した英語授業」の重要性を伝えた。

中学校	外国語
努力事項 1 言語活動を中心とした授業の充実 言語活動設定のポイント ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にした言語活動の正しさ →内容が先、使用する英語は後 2 目標と指導と評価の一体化	具現化のための取組 ○言語活動を中心とした授業づくりの充実 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にした言語活動を中心とした授業実践 ・バランスの取れた指導の実践（4技能5領域【領域統合型含む】や「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」） ・授業内での教師の英語使用（教室英語に加え、教師自身が生徒と英語でのやり取りを楽しむことが重要） ・言語活動の充実につながるICT（デジタル教科書、AI等）の活用 ○各領域の目標と指導と評価の一体化 ・学習到達目標（CAN-DOリスト）の設定と効果的な活用（生徒との共有、達成状況の把握） ・単元終末の言語活動と単元計画の工夫改善、パフォーマンステストの計画的実施、アセスメントテスト結果の活用 【外国語教育の推進に向けた動画及び指導資料】 ・文部科学省 mextchannel 外国語教育はこう変わる！(外国語教育推進室) ・令和5年度全国学力・学習状況調査(中学校英語)調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導事例集(文部科学省 国立教育政策研究所)

- ①英語担当教員の英語力向上に向けて、次の取組を実施
- ・英語スペシャリスト教員の採用
…ネイティブ・スピーカーに特別免許状を付与し、教員として採用
 - ・採用試験において資格取得済みの者への加点制度
- ②英語教育 AI 活用推進事業
- 【対象】モデル校10校 2,200人（中学校1年～3年）
- 【内容】生成AIを活用したモデル授業の研究、好事例の共有
- ①②遠隔教育推進事業（指導教諭による動画配信）
- 【対象学年】中学校1年～3年
- 【内容】各単元の授業動画作成・配信（全県へ）
各単元ライブ配信（同一市町村内の学校へ）

令和7年度 茨城県 英語教育改善プラン

4 技能 5 領域の総合的な育成と発信力の更なる育成

- CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6実績：A2以上 49.7%、B1以上 20.6% ⇒ R7目標：A2以上 60%、B1以上 28%)
○スピーキングテスト・ライティングテストを両方実施した学校の割合 (R6 実績：46.7% ⇒ R7 目標：75%)

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有すると思われると教員が判断する生徒の割合が大きく改善。
(R5:2.3%⇒R6:5.2%)

②生徒の英語による言語活動時間が25%未満の割合が減少し、25%以上50%未満が増加。

科目	生徒の英語での言語活動時間	R6	R5
英コ I	25%-50%	32%	26%
	25%未満	11%	15%
論表 I	25%-50%	36%	26%
	25%未満	15%	17%

未だ改善が必要な点

①スピーキングテスト・ライティングテスト両方実施した学校の割合は増加傾向だが、引続き改善の余地がある。
(R5:42.5%⇒R6:46.7%)

②CEFR A2・B1レベル相当以上の英語力を有すると思われると教員が判断する生徒の割合は増加傾向にあるものの、全国平均と比較するとまだ低い現状にある。

2. 要因分析

①希望する高校において、英検IBAの実施や、CAN-DOリストに基づく学習到達目標をもとにした計画的な指導と評価の一体化が進んだことで、教員による判断の客観性が向上したと考えられる。

②パフォーマンステストの回数の増加やALTを増員したことで、生徒がALTとやり取りする機会が増加し、授業中の英語での言語活動の時間が増加したと考えられる。
(県内ALT R5:64人→R6:85人)

①②ICT機器の活用については、発表やキーボード入力の利用は多いが、発話や発音の録音・録画機能の活用状況が低いことから、パフォーマンステスト等でのICT機器の活用方法が限定的であると考えられる。デジタルドリルや動画コンテンツの活用頻度が低いことから、授業内外でのICT活用について、生徒の発信力向上に効果的な活用がなされていないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

○授業改善推進プロジェクトの実施 (①②①②)
各校で組織的に授業改善を図るため、生徒による授業評価や相互の授業参観、ICTの活用等をおとした発信力の育成を促し、好事例の学校間共有などを行う。

○授業内外でのALTのさらなる積極的活用 (②①)
・ALTの増員と重点配置校への複数配置
・ALT活用協議会を通して好事例(英語で他教科指導、パフォーマンステスト補助、ディベート指導等)の共有

○スペシャリストを対象とした特別選考
ALT経験者等をネイティブ教諭に登用(特別免許状)し、専門性を活かした教科横断型授業の展開

○英語担当教員の英語力の向上
教員の指導力向上を図るため、外部資格試験の受験機会の提供および受験支援
・R6 CEFRA2レベル以上未取得者対象TOEIC IPテスト受験

○英語での発信力強化に向けた事業の実施
・英語プレゼンテーションフォーラム

○いばらき海外留学支援事業



プレゼン



留学

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

茨城県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	50.9	55	49.7	60		62		65	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	24	19.4	26	20.6	28		30		32	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	50	43.8	50	45.3	55		60		65	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	70	42.5	70	46.7	75		80		85	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況		設定(%)	100	100	100		100		100	
			公表(%)	50	53.8	60		65		70	
			達成状況の把握(%)	50	70.2	75		80		85	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	84	85.2	86	88.7	92		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	30.6	50	29.1	55		60		65	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	53.2	55	56.2	57.5		60		62.5	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90	85.7	90		93		96		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	99.9	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況		設定(%)	100	99.1	100		100		100	
			公表(%)	80	76	80		83		86	
			達成状況の把握(%)	90	89.5	90		93		96	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	37.5	33.6	70	41.1	100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90	78.8	80		87		94		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況		設定(%)	95	98.9	100		100		100	
			公表(%)	60	68.6	70		80		90	
			達成状況の把握(%)	85	95	98		100		100	